

インフルエンザ

インフルエンザの特徴とかぜのちがい

- ・インフルエンザはかぜに比べ、突然発症し、高熱・頭痛・関節痛・筋肉痛など、全身症状が強いのが特徴です。併せて、のどの痛み・鼻汁・咳や嘔吐、下痢などの症状を伴うこともあります。
- ・小児では、急性中耳炎や急性副鼻腔炎を併発することがあり、耳痛、汚い鼻汁、頭や頬の痛みが生じる場合もあります。激しい頭痛、嘔吐があれば合はインフルエンザ脳症に要注意です。
- ・例年12月～3月が流行シーズンで、園や学校で感染が急速に拡大します。家庭において高齢者の感染には注意が必要です。

潜伏期間

- ・1～7日(平均2日)。インフルエンザに罹った人の咳・くしゃみ・つばなどの飛沫から放出されるウイルスを鼻やのどから吸い込むことで感染します。

検査

- ・細い綿棒で鼻汁をとり、検査します。10分程度で結果が出ます。発症して間もないと(発熱から24時間経過後の検査が望ましい)ウィルス量が少なく、陰性となることもあります。その場合には、翌日再検査を行う場合もあります。

家庭で気を付けること

- ・安静にし、水分補給をして脱水にならないよう気を付けましょう。
- ・入浴は熱が下がってから疲れない程度にしましょう。
- ・吐き続ける、頭痛や咳がひどくて眠れないなどの症状がある場合は小児科や内科を受診してください。
- ・中耳炎、副鼻腔炎を併発する場合があります。耳が痛い、耳から汁がでる、黄色い鼻汁が出る、頭が痛い、頬が痛いなどの症状がある場合は耳鼻咽喉科を受診してください。
- ・抗インフルエンザ薬を使用すると発熱期間が短縮されます。解熱剤には、アセトアミノフェンを用います。ご家庭でお持ちの解熱鎮痛剤のご使用は、医療機関にご相談ください。
- ・タミフルと転落等異常行動との関連は今のところ不明ですが、タミフルの服用の有無にかかわらず、自宅で療養する場合は少なくとも2日間、小児や未成年者が一人にならないよう配慮してください。ウイルスによるインフルエンザ脳症でも同様の異常行動が現れることがあります。
- ・発症後2～5日間はウイルスの排泄を認めますので、解熱後も家庭内でマスクの着用をしてください。

幼稚園、学校やお仕事のお休みの期間

- ・出席停止期間は、発症(発熱)した翌日から数えて5日間、かつ解熱した後2日(幼児では3日)を経過するまでは登校、登園、出勤はできません。
- ・登校許可証は、各学校や園に必要な有無を確認し、必要な場合は許可証を持参の上、医療機関を受診してください。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>